

モデルケース (22.04.17)

あなたは公立小学校の巡回相談心理士としてA小学校に訪問しています。これまでに複数回訪問していますが、10月にあたる今回の訪問では以下のケースについて助言することが求められました。今回のケースは、特別支援教育コーディネーター(SENCO)や学年の他の教諭が対象児童の支援を改善したいと希望したことが相談の始まりでした。SENCOから担任教諭への説明後、校内委員会の判断で巡回相談心理士に助言を求めることになりました。SENCOによると、校内委員会では対人関係について支援の必要性が高く、学級内の支援を充実させてから特別支援教室の利用を検討したいとのことでした。

担任教諭は行事準備があり、心理士の訪問日に協議する時間はありません。そこで、担任に向けた助言レポートを作成することになりました。(1)児童の困難さの背景、(2)担任が学級で行う長期及び短期の支援目標についての提案、(3)支援の手立てを中心に、効果的な支援の実行可能性が高まるようなレポートを800字以内で記述してください。なお、上記3点を記述する際には、(1)～(3)の見出しを簡潔に記してください。不足している情報がある場合は、各自でケースを想像してください。

【通常学級担任(教職4年目)から提出された相談シートの記載内容】

- ・小学校5年生。男子。
- ・おとなしく、自分から同級生に関わらないため、仲の良い友だちはいない。
- ・休み時間はいつも一人で、本(戦争の本や謎解きの本など)を読んでいる。
- ・一人でいることに寂しさを感じている様子はなく、一人を好んでいるようだ。
- ・ペア学習では、自分の意見は発言するが、他の児童の意見に興味はないようで聞いているのかわからない。
- ・グループ学習では、発言は少ないが、自分の順番になれば意見を言うことができる。
- ・グループの他のメンバーの発言に対して、小声で「そんなわけないだろ」「はぁ? どういう意味?」とつぶやいていることがある。
- ・翌日に必要な物や変更した予定を繰り返し質問してくることが多い。
- ・読書感想画では、戦車や戦闘機、武器、人が血を流して倒れているところなど、他の児童が見たらぞっとするような様子を描いた。
- ・好き嫌いが多く、給食では肉類を「臭いから食べたくない」と言い、口にすることは少ない。
- ・今年8月にWISC-IVを行い、FSIQ:105、VCI:109、PRI:107、WMI:105、PSI:98であった。
- ・保護者は協力的で、持ち物などの忘れ物がないように声をかけてくれる。ただし、本児は自分の思い通りにならないと、家庭内で妹や母親に対する暴言をはく。父親には暴言をはくことはないようだが、帰りが遅くあまり関わりはないようだ。
- ・特別支援教室の利用について保護者と相談している。在籍学級では交友関係がうまくいかないが、個別に指導を受ければ改善されると思う。

【行動観察結果】

国語の授業を観察した。授業は、(1)よりよいクラスにするための自分の意見と理由を考え、(2)反対の立場の意見を想像してワークシートに記述し、(3)最後にそれぞれの意見をグループ内で発表するように展開された。

(1)の場面では、担任がよりよいクラスについて一斉に質問すると、本児は挙手

することがなかった。他の児童が「ありがとうを言う」「困っている人がいたら助ける」などの発言をすると、周囲の児童に明確に聞こえないような声量で、「ありがとうって本当に思っていないかもよ」「なんでも助けてあげちゃうの」とつぶやいていた。担任には、本人の発言が聞こえず、淡々と挙手した児童の意見を取り上げ、板書していた。

(2)の場面は、ワークシートに自分の意見とその理由、反対の立場の意見を考えて書く活動であった。本児は自分の意見に“うるさくないクラス”と書き、理由には“うるさいのは嫌だから”と書いた。担任は机間巡視の際に、本児に個別に声をかけ、「うるさいのが嫌なのか。どうゆう音や言葉をうるさいって思う？どうして嫌なのか理由も具体的に書けるといいよ」と助言した。その後、担任は別の児童を指導するために離れた。本児は、“大声で話さないクラス”“バカとか汚い言葉を言わないクラス”と記述した。理由には“嫌なことは嫌だから”と記した。反対意見は、空白であった。

(3)の場面では、4名が班隊形に机を並べ、向かい合って活動した。本児のグループは、落ち着いた児童が多く、大きな声を出す児童、割り込んで発言をする児童はいなかった。グループ活動の前に、担任は発言の順序を伝え、他の児童が予想される反対意見に付け足しをするよう一斉に指示した。他の児童の発言の際に、本児は黙って意見を聞いていた。視線は発表者のワークシートに向いており、発言が終るタイミングで視線を相手の顔の方に向けていた。時々、他の児童が「気持ちよいクラスになるといいです」「うれしい言葉がたくさん聞こえるクラスになるといいです」などの意見を発表すると「気持ちいいってどうゆうこと…」「うれしい言葉って何…」と小声で発言していた。グループの児童は本児の発言に反応することはなく、理由や反対意見を述べていた。

本児の順番になると、本児は自分の意見を発表した。グループの児童に聞き取りやすい声量とは言えないものの、耳を傾けて集中をすれば何とか聞き取れた。反対意見については、「うるさいのが嫌なので、反対意見は分かりません」と発表した。本児の発表後、グループの児童は少しの間、沈黙をしたが拍手をして各自の発表は終わった。反対意見を出し合う活動では、本児以外の3名の児童が意見を出し合っており、本児はロッカーの上の本棚や自分のプリントを見ていた。その後、グループ活動は終わり、机を戻して本時の授業は終わった。